

先週の礼拝メッセージ(2023年8月27日)

「見える者・見えない者」 ヨハネによる福音書 9:35-41

9章からの3回シリーズの最後のメッセージになります。生まれつき目の見えなかった人が、イエス様と出会い、「この人が生まれつき目が見えないのは、誰が罪を犯したからですか。」という弟子たちの質問に、イエス様は「神の業がこの人に現れるためである。」とお答えになり、彼の目を癒してくださいました。彼に現れた神の業は、目の癒しだけではなく、イエス様を救い主と信じて、彼の心の目が開かれるということにも現れました。彼の信仰の証しによって、彼は会堂から追放される(村八分になる)という困難を受けますが、それでも恐れずに証しを続けるというのが先週までのお話でした。

イエス様は彼が追放されたことをお聞きになり、彼を探してお会いになりました。なぜでしょう。生まれつき目が見えなかった彼のこれまでのことを考えるなら、目が見えないということのゆえに、聖書の教育を受けることや宗教行事に参加することもできなかったでしょう。読み書きの教育も満足に受けることができないで今に至っていることでしょう。イエス様のお話を聞く機会も稀であったと思います。そんな彼がイエス様と出会い目が見えるようになり、心の目も開かれ信仰によって強められたのですが、別の試練の生活がこれから始まるのです。そしてその試練、村八分になるということは、これからずっと続いていくのです。彼のこれからの人生はどれほど大変なことでしょう。今の喜びを失ってしまうかもしれません。だからこそ、イエス様は彼を探して、信仰のフォローアップをなさったのです。

「あなたは人の子を信じるか」とは、「あなたはメシアを信じるか」という問いです。「主よ、それはどなたですか。」彼は確実に、自分に声をかけてくださった方が、自分の目を癒してくださった方だと、声を聞いてわかったはずですが、確認のためにそう聞くのです。これは当時のユダヤ人の問答形式です。そして、「その方を信じたいのですが。」と答えます。これは「私はすでにその方を信じています」という信仰告白の言葉なのです。

「あなたは、もうその人を見ている。あなたと話しているのが、その人だ。」

イエス様は彼の信仰告白を受け入れ、彼の信仰を確立させる言葉をお掛けになりました。彼はひれ伏しました。これは、彼がイエス様をメシアと

して礼拝したということなのです。聖書は彼のその後の人生について記していませんが、イエス様の弟子の一人として歩んだのではないのでしょうか。いずれにせよ、聖書知識も学歴もない彼は、メシアしかできない、人の目を開けるという奇跡を体験し、イエス様がメシアであるという信仰をはっきりと証しし、困難があってもその人生をイエス様によって力強く歩み続けたことでしょう。

そしてイエス様はこう言われました。「私がこの世に来たのは、裁くためである。」

同じヨハネ 3:17には「神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。」と記されています。一体どういうことなのでしょう。3:17の「裁く」は、この世を罪に定めるという意味で使われています。9:39の「裁く」は、「白黒をはっきりさせる」という意味で使われています。イエス様が来られるまで、律法を守ることによって救われると教えられていました。しかし、律法を守ると言っても、どこまで守ればいいのか、誰がちゃんと守っている人なのか、それがはっきりしませんでした。しかしイエス様が来られて、イエス様を信じたら罪赦され、信じなければ赦されないと、白黒をはっきりしたわけです。イエス様は、人を罪に定めるために来られたのではありませんが、その救いの業の結果、イエス様を拒絶する人は滅びることがはっきりしたのです。

さらに「見えない者は見えるようになり、見える者は見えないようになる。」とおっしゃいました。つまり、自分は見えない者、罪人であると自覚して、イエス様のもとにへりくだって来る人は、心の目が開かれて救われるのです。しかし、自分が見える、律法を守っている正しい人間だと、自己義認している人は、実は見えていないのです。滅びに向かっているのです。

今の時代でもそういう人は多くいます。私には神など必要ない、自分の力でやっていける、私は正しく歩んでいる、そうやって福音を受け入れようとしない人々です。そういう人は実は自分の醜さや汚れがわからず、心の目が閉ざされている人なのです。すべての人は罪人で、心の目が見えていないのです。そういう人の目を開くためにイエス様は来られました。イエス様を信じて心の目を開かれた者は、罪赦されて神の子とされ、救いをいただいているのです。そして神様は、光としてその人と共に歩み続けてくださるのです。